

事業所名 グループホーム 西坂
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成21年 3月31日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A: 現職 自営業
資格・経歴 介護福祉士、介護支援専門員
B: 現職 介護支援専門員
資格・経歴 介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・倉敷インターより南へ車で5分ほど行った、のどかな田園地帯の中に「グループホーム西坂」はある。少し足を延ばせば、郵便局や学校、スーパー等の商業施設もあり、利便性があり、且つ、自然に恵まれた環境の中で入居者は暮らしている。
- ・「グループホーム西坂」がある菅生地区には、これまで福祉施設がなかったこともあり、当ホームは市からの要請を受けて開設に至った。「地域の役に立ちたい」との強い思いで立ち上げており、入居者にとっての「第二の我が家」として、最後まで共に暮らし続けられるよう日々取り組んでいる。
- ・法人統括責任者は、管理者や認知症専門医でもある主治医との連携を図りながら、入居者の思いや不安等を真摯に受け止め、入居者が落ち着いた気持ちで安心して暮らせるよう職員と共に取り組んでいる。
- ・入居者個々の能力を見極め、入居者同士で支え合い、いたわり合って過ごせるような、様々な生活場面を設定し、入居者自身が本来持っている優しさや几帳面さ等、隠れた能力を引き出せるよう取り組んでいる。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

開設して、一年余りでもあり、多くの課題はあるが、管理者は、ホーム運営に意欲や夢を盛って熱心に取り組んでおり、その思いが職員間により浸透し、絆が深まっていくことを期待する。また、事故報告書・ヒヤリハット等、記録類の改善を行い、会議やミーティング等で職員間の共通意識を深めて情報の共有化を図り、一つのチームとしてより良いケアサービスの提供に取り組んでいられることを期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者個々の尊厳を守り、入居者一人ひとりが生き生きと充実した気持ちで暮らせるよう、日々取り組んでいる。 ・常に家庭的な環境を維持し、入居者自身の「その人らしさ」を大切に役割作りや居場所づくりを行っている。 ・入居者それぞれの能力を見極め、日常生活の中の活動で自然に身体機能が維持できるよう働きかけている。 ・管理者は、「入居者に対して、今すべき事は何か」を考え、職員側の都合を優先するのではなく、入居者が望む暮らしの支援を心がけている。 ・地域の方と、季節ごとの行事等を通して良好な人間関係を築き、入居者が地域の一員として地域とつながりながら暮らして続けられるよう、交流を図っている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居当初は、慣れない場所での不安や寂しさ、ストレス等から不穏になり、感情が抑えきれない時期があるが、職員は、常に傾聴・共感の姿勢で入居者と接し、入居者一人ひとりの思いを真摯に受け止め、少しずつホームでの暮らしに馴染んでもらい、安心して暮らせる場所となるよう取り組んでいる。 ・入居者の状態や経過を良く観察し、認知症に詳しい主治医の指導も受けながら、入居者が落ち着いた気持ちで暮らせるように支援している。 ・職員は、ゆっくり・ゆったりとした動作や口調を心がけ、入居者の気持ちに寄り添った支援に努めている。 ・ホームの行事や活動内容により、リビングのレイアウトを変えたり、日当りの良い窓辺に椅子を移動する等、入居者がくつろげる場の提供に努めている。 ・入居者への食事・入浴・排泄等の介護にあたる時には、作業的にならず、入居者の気持ちに一つずつ応えていくように心がけている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のベースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の変容に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者同士が自然に助け合いながら暮らしており、職員は入居者一人ひとりの持っている力を尊重し、待つ介護を心がけ、そっと入居者の様子を見守っている。 ・トイレのドアには、目線の高さに「ノックをして入ってね」と書いてあり、一人ひとりの分ける力を活かして混乱や失敗を防ぎ、日常の暮らしのマナーを維持できるように支援している。 ・人前であからさまに介護をしたり、誘導の声かけをして入居者を傷つける事のないよう、目立たずさりげない介護を心がけ、明るく丁寧に言葉を掛けている。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		○
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防・対策として、玄関には消毒薬を設置し、「感染症予防にご協力ください」とのメッセージを貼って訪問者にも協力を依頼している。 ・法人統括責任者は、現場に直接関わり、入居者の状態や変化に応じて迅速に対応できるよう、管理者や主治医と連携を図りながら取り組んでいる。 ・全職員が同じ対応ができるよう、新規採用の職員のオリエンテーションでは、非常災害時の連絡方法等の勉強会を行っている。また、感染症対策や心肺蘇生法、接遇マナーの研修を実施してホーム内で報告・勉強会を行い、職員資質の向上を図っている。 		